

白川先生の横顔

尾坂 格

工学研究科4年

世界の白川

世界の白川。大学に入って間もない頃、こんな言葉を耳にしました。何の研究かはよく分からないけれど、とにかくすごい研究成果を残した先生らしいということでした。しかしながら、当時の私にとっては化学担当の先生というだけで、研究室に配属されるまでポリアセチレンを開発した人であるということは知りませんでした。私は研究室を選択する際に白川研究室にするか他の研究室にするか迷っていたのですが、良い選択だったと思います。

白川研究室で共役系高分子について学ぶにつれて、白川先生の計り知れない偉大さに気づきはじめました。学会に参加するようになってからは、よりいっそうその偉大さを実感することになりました。白川先生に接する方々は非常に緊張した趣で、先生の発する言葉に熱心に耳を傾けていました。このような何気ない

ことで、周囲の白川先生に対する敬意を見て取ることができるわけです。

ある国際会議において、今回ノーベル化学賞を受賞された中の一人であるヒーター先生と抱擁しながら挨拶をしているところなどは非常に印象に残っています。ヒーター先生といえは、もう一人の受賞者であるマクディアミッド先生と並んで我々の研究分野では最も権威のある先生の一人であり、この学会が発行している雑誌の編集長であるわけですから、そのような方と非常に親しくしているというのは、私にとっては驚くべきことだったのです。また、国際学会はかなり大きい会場を借りて行われるため、発表会場が満員になるということはあまりないのですが、白川先生の講演の際には会場が満席になるところか、立ち見で壁際までもがうめつくされてしまうほどでした。やはり、「世界の白川」であると再認識させられました。

研究室生活における白川先生

私が研究室に入ったときには白川先生は第三学群長をされていて、非常にお忙しく、ゼミの時間を除いて我々学生と接することが非常に少なかったような気がします（白川先生自身もそれに関しては非常に悔やまれていたようです）。ゼミでは、研究に対する心構えから実験結果、考察に対する意見など厳しいものも含め様々な助言をいただきましたが、実験のやり方、器具の取り扱いなどは先輩から教わるというのがほとんどであり、白川先生から直接指導を仰ぐということはありませんでした。もちろん先輩からは間違っただけを教えられたことはありませんし、それに対して不満はいつさいありませんが、ただ白川先生の持っているちょっとした実験のコツやテクニクを教えていただける機会がなかったのは非常に残念に思います。

私が大学院の1年生の時までは白川・赤木・木島研究室として三人の先生の担当する学生併せて25人くらいでゼミを行っていて人数が多かったということもあり、白川先生は研究室に配属されたばかりの学生はなかなか顔と名前が一致しなかったようです。入って間もない頃など、研究室外で会ったときに挨拶をすると、不思議そうな顔で会釈を返してくだ

さったということもありました。皆一度はそういう経験をしたようです。また、白川先生は人に話しかけるときに「あなた」もしくは「〇〇くん」と呼ぶことが多いのですが、ごくまれに「〇〇」と呼び捨てにすることがあります。白川先生がどのような基準でこう呼ぶのかは知る由もありませんが、学生の間では呼び捨てにされるとというのが一種のステータスようになっていたのです（一部の学生の中だけかもしれませんが）。つまり、呼び捨てにされたイコール白川先生に認められた、と考えられていて、実際上級生でないとそう呼ばれることはなかったように思います。私も一度だけそう呼ばれたことがあり、舞い上がってしまったのを覚えています。

元々学生と接することが好きな白川先生は、研究室の飲み会やOB会には必ず参加してくださっていました。ある年の花見の席では、ソフトボールで遊んでいた学生たちの元へ白川先生がやってきて、バットを構えて打席に立ち、しばらくの間学生の投げるボールを打ち返すという一幕がありました。まさか、白川先生が我々に混ざって遊ぶということがあるとは思いませんでしたので、我々にとっては非常に新鮮で楽しい一時でありました。昔は学生が少なかったことや最

近のような忙しさがなかったということもあり、白川先生が自宅に学生を招き食事会をしていたということを卒業した先輩から聞いたことがあります。私も研究室の仲間と一緒に一度白川先生宅へ遊びに行かせてもらいたいと願っているのですが、現在の白川先生を取り巻く状況を見るとしばらくはそれを実現させるのは難しそうです。

最後に

最後に、あらためて白川先生がノーベ

ル化学賞を受賞されたことに心から祝福したいと思います。これは我々学生にとっても非常に誇り高いことであり、これからの研究活動にプラスになると思います。白川先生のようなすばらしい先生に研究者として第一歩を踏み出す時期に巡り会えたことは、私にとって非常に幸運でした。私もほんの少しでも、白川先生に近づけるよう努力していきたいと思っています。

(おさかいたる 物質工学)

